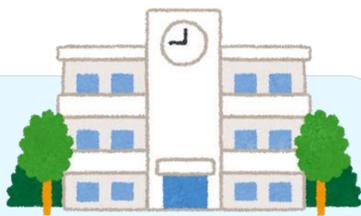


教師のコミュニケーションスキル 育成支援システム

大阪府立大学 現代システム科学域 森 夏実, 林 佑樹, 瀬田 和久

研究背景



教師と生徒のコミュニケーション:

生徒は考えや事実の全てを語れない, 語りたくない, あるいは, 教師が生徒にこれ以上語らせたくない状況は珍しくない



生徒の心情を汲み取る配慮が求められる

- 教師が単視眼的な見方でしか見れない場合, 偏った解釈で生徒指導をしてしまう可能性がある
- 多様な見方を備えながら生徒と対話するコミュニケーションスキルを備えることが望ましい

具体例

状況:英語が苦手な中学3年生の生徒が教師と進路相談している場面

教師「英語が苦手なのね？」
生徒「そうなんです. 全然できなくて…」
教師「そっか. できないってどれくらいできないの？」
生徒「もう中学一年生の範囲からわからないんです。」
教師「なるほど. もう受験生になるわけだけど, 高校はどこを志望しているの？」
生徒「それなんですけど, ちょっと言うのが恥ずかしくて…」

見方

- 偏差値が低い高校を志望しているから言うのが恥ずかしい
- CAになりたいという夢を話すのが恥ずかしい
- 経済的に高校に行けなくて悩んでいる ...etc.



研究目的

コミュニケーションにおける多角的な見方の獲得

教育現場で生じる事案について考える機会を設け, 自分と異なる多様な見方の獲得を促す

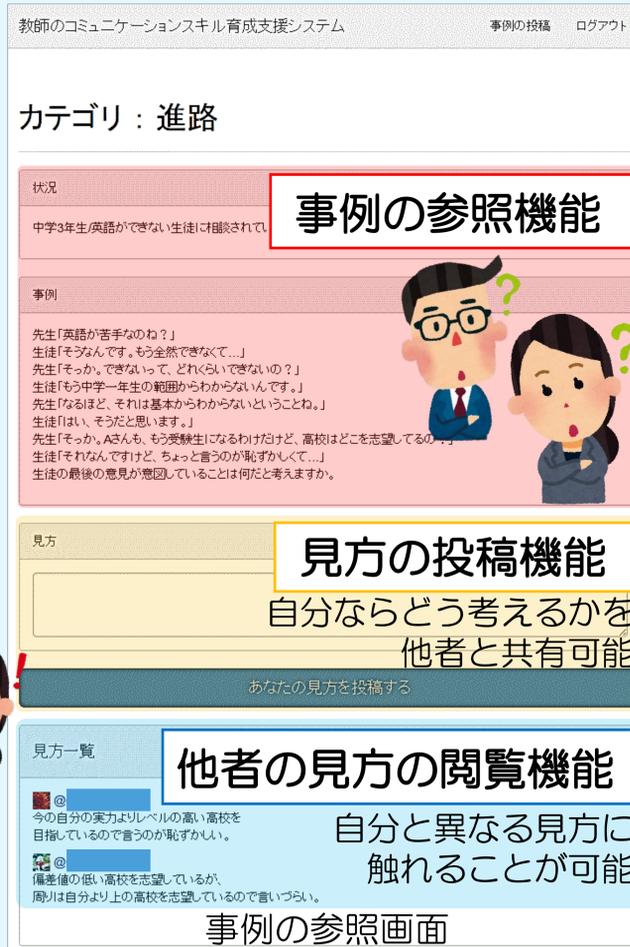
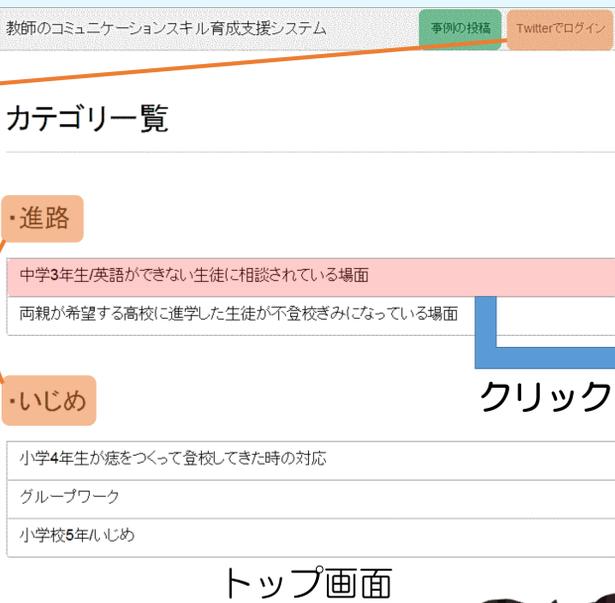
構築したシステム

OAuth認証を利用

外部サービスを介したセキュアな認証を実現

カテゴリ別に分類

どのような事案が教育現場で生じ得るかを分類して表示 (14事例登録済み)
e.g. 進路, いじめ, 授業, 行事



事例に音声や映像等の非言語情報を用いない

特定の状況をリアルに表現するような情報を排除し, 考え得る様々な状況を想像することで多様な見方の獲得を促進



今後の課題

- 蓄積事例が多くなった場合の表示方法の検討
- システムの有用性の確認

